

第二回 学校運営協議会議事録

〈日時〉 令和4年10月19日(水) 14:00~16:50 (※ 授業見学を含む/文化祭1週間前)

〈場所〉 メモリアルルームほか

〈出席者〉 学校運営協議会委員 江藤佐友里、後上 鐵夫、佃 英男、鉄沢 尚美、林 孝信

本校教職員 小畑 敦彦、川端 裕子、四反田武志、松下 知弘、

秋山 広樹、日野 晴之、馬場 脩平、目 勝行 (敬称略)

- 〈資料一覧〉
- 1 第1回授業アンケート結果 (R4.7 実施)
 - 2 授業アンケート 質問事項
 - 3 令和4年度 広報委員会活動について
 - 4 進路状況 (17期)
 - 5 自立支援コース 進路に向けた取り組み
 - 6 スクール・ミッション (案)

次第

1 開会

2 会長挨拶

3 授業見学

4 議事

(1) 第1回授業アンケートの結果について (教頭) <資料1、資料2>

(2) 広報委員会活動について (首席) <資料3>

(3) 3年次生の進路状況について (進路指導部長) <資料4>

(4) 自立支援コースの進路に向けた取組について (自立支援部長) <資料5>

(5) 修学旅行を中心とした学年の様子について (2年次主任)

(6) スクール・ミッションの制定について (校長) <資料6>

5 質疑

6 閉会

○第3回の日程について

協議内容

■ 議事

(1) 第1回授業アンケートの結果について(教頭)〈資料1、資料2〉

1. 授業アンケート実施の目的

「すべての生徒がわかる授業」を実現するために、教員の振り返りに活用する

2. アンケート結果から

- ・昨年度よりも全体的に厳しい数値が出ている。
- ・選択科目で昨年度よりも数値が高いが、これは自分の興味があるものを選択していることが寄与した可能性が高い。
- ・生徒意識1・2でも選択科目の数値が高く出ている。
- ・2年次… 2年が中だるみの時期で1年次よりも低い数値
- ・3年次… 2年で中だるみがあるが、今年度は回復してきている
- ・今年度から校長により、「授業力向上」から「生徒の学習力向上」に文言を変更した。各教員が授業を実際にやっていく中で、生徒の学習力を高めていく工夫をしていく。

3. 質疑

Q. 一年生に選択科目はないのか。(委員)

A. 2年時から選択パックに別れていく、1年時は基礎力を高めていくことを目標にしている(教頭)

Q. 自由記述欄に特に気になることはあったか。(委員)

A. 後ろの席から黒板の字が見にくいなど、たくさん記述はあった。生徒自身が授業をわかりたいという意識が伺えるので、ほっとしている。(教頭)

国語の授業に関して、「導入からワクワクする授業でした」ということを書いた生徒もいた。そのことを担当教員に伝えたところ。「4月から意識していたところなので、生徒に伝わって良かった」とのことだった。(校長)

(2) 広報委員会活動について(首席)〈資料3〉

1. 今年度の活動

9 学区学校説明会で本格的に志望者がブースを訪ねてきた

10月15日(土) オープンスクール 参加者 中学生 302人 保護者 92人参加

〈アンケートから〉

【オープンスクールに参加した目的】では「貝塚高校を受験するための下見」が最も多く、次いで「総合学科に興味があった」が多かった。

【貝塚高校を受験する気持ち】については、「まだ他校と比較して検討したい」が最も多い。

2. その他

- ・近隣の学校に比べて、本校を志望する中学生は多い
- ・新カリキュラムから、卒業後を意識したパック構成になっているので、現1年生からどのような進学結果が出るのか楽しみ

- ・昨年度のアンケートと比べて、他校とも比較したい、絶対に受験したいが増えている（四反田）
- ・自立のオープンスクールは、毎年参加人数が多いが、今年も期待している。（委員）
- ・中学生から現在 340 名の出願希望がある。この後調整が加わって落ち着く。
自立も 7 名希望している。泉鳥取高校が募集停止することが影響しているか。（校長）
- ・本校の特徴である、自立支援コースの広報活動を充実させてほしい。（委員）

（3）3 年次（17 期）生の進路状況について（進路指導部長）〈資料 4〉

1. 17 期生の傾向

- ・例年より 4 年制大志望多く、専門学校少なめ。就職希望者は年々減少傾向。
- ・現在の進路確定者は 30%ほど。
- ・専門学校合格者は志願者の半分程度。看護の入試は今週土曜日から（30 名ほど受験予定）

2. 大学

- ・近年の流れは、私立大の国際系・観光系が定員割れ。（コロナの影響）
- ・本校は約 60 名が大学進学志望。共通テスト 4 名が受験予定である。

3. 短大

- ・本校は約 20 名が受験予定。その大半が幼児教育系（全国的に倍率低下（倍率 1 割台））

4. 専門学校

- ・本校は 110 名志望 例年通り 1 番のボリュームゾーンとなっている。
- ・医療分野 35 名、衛生分野 20 名
※ 動物、美容、情報系の専門学校が人気 動物系の総合型入試も人気

5. 就職

- ・合格率 100%！（全員一次で合格） 男子 4 名 他女子
- ・生徒の頑張りはもちろん、教員のバックアップ体制の充実が合格率 100%に繋がったか。

6. その他

- ・就職希望者が全国的に減少している一方で、企業は高卒を採りたい。就職希望者にはチャンスだと思っている。
- ・総合学科の本校の売りだと思う。どの進路の生徒にも手厚くバックアップする体制が整っている。
- ・看護・医療系の進学に強みがある。

（4）自立支援コースの進路に向けた取り組みについて（自立支援部長）〈資料 5〉

1. C-Step について

C-Stepとは、障がいのある人への就職補助を行っている大阪府の機関である。

本校の自立生の就職の半分はC-Stepによる斡旋。

2. 自立支援コースの取り組み

- ・1年次…職場見学 現在は延期。本来であれば、既卒生の職場を見学させてもらう。
- ・2年次…職場体験 現在は2回目の職場体験に向けて準備中
- ・3年次…職場実習 昨年度体験に行けていないので経験不足だったが、いい実績だったと思う
今年の延べ実習日数は100日を超える予想 教員の付き添いや反省などが必要なので手間がかかる。
今年度はコロナを理由に断られる件数が減った
- ・卒業生に対して定着支援を行っている。障がい者就業・生活支援センターとの連携を取っている。

3. 自立の広報活動

- ・貝塚市立5中学対象の自立支援の見学を10月26日に実施予定
- ・本校は良い倍率を保っている

4. 質疑

Q. Bの大阪国税局は公務員試験に合格したのか？（委員）

A. 期限付き雇用なので試験はなかった。また本人の第1希望ではなかった。（日野）

- ・公務員こそ障がい者雇用を勧めていかなければ。先生方からも声を上げてほしい（委員）
- ・障がい者雇用で、知的障がいがある者が合格しにくいという現状がある（校長）

(5) 修学旅行を中心とした学年の様子について（2年次主任）

1. 目的

クラスだけではなく学年の絆を深める

2. 日程

9/3～9/6まで 北海道に修学旅行

第1日 アイヌ文化について学ぶ

第2日 体験別学習 フィッシングやカヌー体験などを行った。

溪流でミミズを餌に釣りを行った。昼は釣った魚を食べるなど、北海道の自然を満喫できた。

第3日 ファームビジット（本来はファームステイを実施したかった）

酪農体験では牛の糞から発電する装置なども見せてもらい、SDGsに触れることができた。

バスの運転手に、自分たちから挨拶する生徒たちの姿を見ることができて、誇らしかった。

レクレーション

準備・計画・進行まで生徒が主体的に行い、生徒の自主性を感じられた。教員が準備した花火にも喜んでくれた

第4日 小樽の散策

生徒たちは、お土産もたくさん買って楽しそうにしていた。

3. 帰阪後の様子

現在 文化祭 飲食バザーに向けて各クラス準備

3年に向けての準備期間と捉えている。11月には面談も計画中

頑張っている生徒が多い一方で、指導に時間のかかる生徒もいる。毎日指導や対応に追われると教員が疲弊してくるという現状もある。

4. 質疑

Q. 行き先は生徒の希望を取ったのか。(委員)

A. 前年度(入学前)から計画し始めるので、希望は取っていない。コロナの影響でファームステイは断念した。(馬場)

・体験型修学旅行で、子どもたちにとっていい経験になったと思う。今後も続けてほしい。(委員)

(6) スクール・ミッションの制定について (校長)

1. スクール・ミッションとは

学校の設置者が各高等学校やその立地する地元自治体等の関係者と連携しつつ、各校の存在意義や各校に期待される社会的役割、めざす学校像等を定義するもの。10年サイクルで作成。

2. スクールポリシーとは

高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものへと再構築するとともに、各校における教育の継続性を担保する目的で作成する3つの方針：育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)、教育課程編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)をいう。5~10年サイクルで作成。

3. 本校のスクール・ミッションについて

- ・本校の特色である総合学科を前面に出すために「自立支援コース設置の総合学科」を強調
- ・育てる人材はグローバル人材ではなく、「地域や次代を支えリードする人材を育成」する。
- ・スクール・ミッションに関してご意見いただきたい

4. 提言

- ・キャリア教育についてキャリアプランマトリックスを参考にして考えてほしい(委員)
 - ・1年次で産業社会と人間がキャリア教育に該当する。2年次以降のバック選択に繋がっている(校長)
- スクール・ミッションに関しては次回までの検討内容とする

■ 質疑・意見・感想

委員・普段あまり学校の情報が回ってこないが、今回学校の雰囲気が知れて良かった。

・生徒と教員との距離感が近いのが良いなと感じた。

生徒に親身に向き合っている様子が感じられて非常に信頼できる。

委員・寝ている生徒に対しての注意はパワハラに当たるのか。

教頭・教員からの声掛けはさせてもらっているが、身体接触はできない。

委員・授業参観たくさん回れて非常に良かった。

・生徒のアンケートは授業中にやっているのか。

校長・LHRの時間に一齐にやっている。生徒の素直な意見を拾うことができている。

委員・授業見学では寝ている生徒もいた。

・自立支援生の授業でタブレットやスマホを活用しているのがよかった。

・家庭科の教員が一人で多人数の生徒に作業をさせているのがすごかった。

・数学の授業はみんなが好きではないと思うが、新採の教員が一息懸命生徒を集中させていたのがすごいと思った。

・スクール・ミッションの案は素晴らしいと思う。次回この会議で話し合っていきたい

委員・生徒中には寝ている生徒もいたが、そんなに多くないと思う。先生の工夫が感じられる。

・自立生が英語を話していたのがすごい。実際の生活の場面で使える英語を身につけているのが素晴らしい。

・世界のインクルーシブ教育が話題になっているが、よくわからず、全国でも失敗しているケースがある。その中で、「ともに学ぶ教育」を実施することを大切にしてほしい。インクルーシブ教育を達成してもらいたい。

■ その他

・第3回の予定 1月25日(水) 15:30~16:50 (3年授業終了)